

二〇三三年六月一六日

と見る間にエベレストなす雲の峰

せいじ

青梅雨のアブストラクト描く窓

むべ

連山の襞影濃ゆき西日かな

せいじ

朝まだき元気だせよと時鳥

小袖

猫二匹おきものめきし梅雨出窓

あひる

銀輪の吾を追抜くつばくらめ

あひる

二〇三三年六月一五日

草を引くこと又楽し雨後の朝

やよい

二〇三三年六月一四日

葬儀鳩翻る背の夕焼かな

素秀

うなじ涼しカットして出る美容室

あひる

渋滞路西日を避ける術もなく

素秀

二〇三三年六月一三日

梱包の地方新聞梅雨じめり

ぼんこ

蛍火の川面を照らす葉裏かな

むべ

二〇三三年六月一二日

枇杷の実を絞る日照雨の珠雫

素秀

二〇三三年六月一日

麦を焼く煙幾筋湖北晴

隆松

桐箱の紐解く菓子や新茶汲む

なつき

苔青き険磴聳ゆ男坂

もとこ

二〇三三年六月一〇日

天心へ消えたとなめ蜻蛉かな

ぼんこ

擬宝珠の蕾をほどく夜明けかな

むべ

川明かり弾く茅花や淀堤

はく子

毎日句会みのる選・二〇三三年六月一八日